

146億円もの財調積立の背景に市民負担の強化 「利用者負担の適正化」などを目的に今年も事業の廃止・見直し次々

上越市が新年度予算編成にあたり、今回も60事業の廃止または見直しを行いました。廃止または見直しで市が重視したのは「利用者負担の適正化」や「必要性」などです。「利用者負担の適正化」とは名ばかりで、実態は利用者の負担強化です。

市民のみなさんからは、「他市よりも負担が低いから上げるなんてとんでもない」「こんなことをやって財政調整基金を146億円も積み立てたのか。異常というしかない」などの批判の声が上がっています。

【市が廃止または見直した主な事業】

●日常生活用具給付

自動消火器及び電磁調理器を給付対象とした事業。「必要性低下した」として事業廃止。

●寝具丸洗い乾燥サービス事業

乾燥の利用回数を月2回から1回に減らす。また、所得が介護保険における負担割合2割に相当する人の自己負担額を1割相当額から2割相当額へ引き上げ。理由は「利用回数及び利用者負担の適正化」。

●病児、病後児保育室運営費

県内他市に比べ受益者負担が低いとして、「受益者負担適正化」などを理由に、利用者負担金を1日当たり900円を1300円に引き上げ。

●健（検）診自己負担金の見直し（市民健康診査事業、がん予防推進事業）

「受益者負担適正化」の観点から、自己負担額をおおむね委託料の3割相当額に引き上げる。ただし、特定の健（検）診については、当市の疾病の特徴を考慮し、2割相当額とする。

●脳ドック検診費用助成事業

「受診者数が少ない」ことを理由に廃止。

●地域バス運行事業

利用が著しく少ないとして、土曜日を運休に。



大口満さんの個展

高田まで出たついでに、お昼休みの時間帯を利用し、上越高校の先生だった大口満さんの個展を観てきました。

会場には風景、人物、花など素敵な絵がたくさん並んでいました。なかでも海岸に近い場所の風景画がとくに印象に残りました。どこにでもある風景なのに、なぜか惹かれるのは先生のお人柄なのでしょうか。場所は大潟区の海岸ではないかとおっしゃっていましたが、私には柿崎区の直海浜の風景に見えました。お昼休みにもかかわらず、大口先生と話もできました。よかったです。先生の個展は10日まで、上越市本町3丁目の大島画廊にて開催されています。ぜひお出かけください。



大島区のあるお宅でみるお母さんのお母さんのお姿をみかけました。木槌と包丁を使った。お母さんのお姿をみかけました。お母さんのお姿をみかけました。お母さんのお姿をみかけました。

【タネツケバナ】



【タネツケバナ】アブラナ科の1、2年草。漢字で「種漬花」と書きます。つい最近まで、間違って「種付花」と書いていました。田んぼの周辺などに生えています。家の近くの田んぼで撮影しました。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1752 2016.4.10

発行・編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL http://www.hose1.jp/



ブログ
「ホーセの
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第四〇〇回

夕焼け

「吉井のかちや」が亡くなりそうだと知ったのは昨年の暮れでした。従妹ほかの人だったか記憶は定かではありませんが、教えてくれた人は「正月を迎えることができなばいいが……」と言っていました。

それだけに正月を越え、二月、三月になっても何も連絡がなかったもので、いつの間にか、「大丈夫だったんだな。まだしばらくは大丈夫だな」と安心していました。

亡くなったという知らせは先日、突然やってきました。関東地方に住む息子のHさんがフェイスブック（インターネット上の投稿交流サイト）に「母がなくなってしまう。涙が止まらない。仕事中心」と書いて投稿されたのです。びっくりしました。

「やはりだめだったか」と体から力がすーっと抜けていくのを感じました。Hさんの投稿は短いコメントでしたが、母親が亡くなった知らせを受けたときの気持ちがよく書かれています。たぶん、東京で仕事をされていたのでしよう。すぐに飛んで帰りたい、でも帰れない、その切なさはこちらまで伝わってくるコメントでした。

「吉井のかちや」は三〇年ほど前までわが家があった吉川区尾神の出身です。それも、わが家の隣の人でした。父の姉がその家に嫁いでいて、昨年亡くなった私の伯父とキョウダイです。結婚をしても田植えや田の草取りなどで尾神に足を運んでおられました。もちろんお盆にもです。親しく付き合いをさせてもらうなかで、わが家の誰もが「吉井のかちや」と呼び、私は、「ホーセのノリちゃん」と呼ばれていました。

「吉井のかちや」を語るとき、夫である「吉井のとちや」のことを抜きに語ることはできません。「吉井のとちや」は既に亡くなっていますが、若いころは「木挽き（こびき）」の仕事をしていました。尾神にあったわが家は昭和三〇年に建てたものです。「吉井のとちや」は、わが家の製材の仕事をした二人の「木挽き」の一人でした。

「木挽き」というのは木挽きをする人のことを言います。母の記憶によると、「ズイーツ、ズイーツ」と音を出しながら、もう一人の「木挽き」と太いケヤキを大きなノコギリで切り割っていったそうです。尾神で仕事をするときには弁当持ちで、おかずは辛いものがお気に入りであったとか。とても働き者で、お酒を飲むと元氣の出る人でもありました。「かちや」が「とちや」の世話をする場面もあったようです。

「吉井のかちや」と「とちや」は同い年でしたが、「とちや」の方が先に体調を崩し、要介護になります。「吉井のかちや」は食事から排泄まで「とちや」の世話をずっとしてきました。苦労することが多く、ゆっくり休む時間などなかったのではないのでしょうか。そういう「かちや」ではありましたが、私に会えば、「ばちや、元氣でいなくなったかね」「じちやはなじよだね」などと、いつもわが家のことに気をつけてくださいました。気持ちのやさしい人でしたね。

葬儀日程を従弟から知らせてもらい、私はお通夜が行われた日に大潟区雁子浜にある「虹のホールおおがた」へ行ってきました。通夜式が終わってから、棺に入った「吉井のかちや」と対面しました。いつもと変わらぬ太めの眉、四角い顔を見て、「これからゆっくり休んでね」と手を合わせてきました。

最後の対面を済ませ、式場を後にした私は、江島新田の南側にある田んぼのところまで車を走らせて、ハッとしました。雁子浜あたりの西の空が夕焼けできれいな色に染まっていたからです。私には、「吉井のかちや」が目をしばたかかせながら、「ばちや」によるしく言ってくれない」と言っているように見えました。

徐々に市村幸恵さんが地元でコンサート



4月3日、吉川区出身でチェコ在住のピアニスト、市村幸恵さんとチェリストであるペトル・ノウゾフスキーさんのコンサートに行ってきました。会場は吉川コミュニティプラザ多目的ホール。主催は「夢をかなえる会」（小山正昭会長）でした。会場いっぱいの人たちがチェロとピアノの素晴らしい演奏を楽しみました。



この日はドヴォルジャーク、ベートーベン、ドビュッシーの名曲の他、「花」「この道」など日本の名曲も演奏されました。

市村幸恵さんとはもう10年近く会っていませんでしたが、演奏にはますます磨きがかかっていたね。それと、前に会った時と変わらぬ若々しさには驚きました。チェリストのペトルさんが日本にやってきたのはこれで3回目くらいだと思いますが、さすがに世界各地で活躍し、高い評価を受けている演奏家だけあって、じつに見事な演奏でした。ペトルさんの「だんだん、どうも、ありがとうございます」という挨拶には親しみを感じました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16 μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月30日(水)	4月10日(水)
上越南消防署	0.057	0.040
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.047	0.057
頸北消防署	0.053	0.053
頸南消防署	0.047	0.050
東頸消防署	0.057	0.050
高士分遣所	0.043	0.050
名立分遣所	0.050	0.050